



1 班 (P2~12)



2 班 (P13~22)



3 班 (P23~47)



4 班 (P48~59)



5 班 (P60~67)



6 班 (P68~84)

学校防災ボランティア事業 成果報告会

令和7年2月2日 (日)

令和6年度
学校防災ボランティア事業
成果報告
1班

1班メンバー

班長	北星高校	中谷昌弘
副班長	鈴鹿中等教育学校	稲生有里
班員	桑名西高校	福岡悠里
	四日市南高校	西雛花
	宇治山田高校	北井さら
	尾鷲高校	平川芽衣

発表テーマ

能登半島の現状を知り

三重県に持ち帰って「伝える」



門前高校での交流



←避難所のリーダーとして 避難所運営に携わられていた能村さんのお話

- 私たち高校生だからこそ避難所でできることを知れた
- 実際の避難所生活を想像できた
- 防災グッズを準備しようと思った



←門前高校の卒業生と在校生の方との交流 (左から田思陸さん、倉澤笙さん、中角春香さん)

- 日々の避難訓練の重要性を感じた
- 学校の大切さ (友達と会える)
- 家族と話し合う (集合場所、避難経路)

足浴・お茶会ボランティアでの交流



←仮設住宅でのお茶会

- 仮設住宅での生活の大変さ
- 能登の観光地やお土産の話をした
- 三重県の観光地やお土産の話をした



←仮設住宅での足浴

- 積極的にコミュニケーションをとった
- 歓迎されてうれしかった
- 初めてのマッサージだったので力加減が難しかった

總持寺と輪島朝市の現状



←曹洞宗の大本山である總持寺

- ・国の重要文化財であり地域のシンボル
- ・復興までに時間もお金もかかる
- ・地域のシンボルである總持寺を中心とした復興



←輪島朝市の現状

- ・復興どころか復旧もしていない
- ・映像で見るよりも被災地の実感がわいた
- ・復興への道のりを少しずつ歩んでいる

1班が三日間を通して考えたこと・感じたこと

- 学校や地域などで積極的に防災に携わる
 - 復興していない現状を伝えていく
 - 備えておくことの大切さ
 - 被災地を忘れない
 - 能登への興味や防災に関心
 - 地域の温かさや支え合いの大切さ
- ⇒ 今回の防災ボランティアで学んだことを
自分の高校や家族、身の回りの人に発信する

私たちに何ができるのか



新規投稿

編集



11月の初めに三重県内の高校生で、石川県へボランティア活動をしに行ってきました。
3日間で、現地の同年代の方や避難所運営の代表していた方からの講演会や、仮設住宅で過ごしている高齢者の方達との交流会、被災地の現状の視察などさせて頂きました。



タグ付け



場所を追加



- ・高校で全校生徒の前で発表（中谷）
- ・学校の広報誌で発信（平川）
- ・自身のSNSで発信（北井）
- ・自身のSNSで発信（福岡）
- ・今後、全校生徒の前で発表予定（稲生）
- ・家族や友人に積極的に伝えていく（西）

発表・発信を通して…

- 災害での被災を身近に
自分事として捉えてほしい
- 能登が復興を目指して
活動している事を知ってほしい

私たちの決意表明

- ▶ 中谷 地域の防災リーダーとなる
- ▶ 稲生 今回の活動を通して学んだことを周りに伝える
- ▶ 福岡 気づいたことや自分たちに足りないものを周りに伝える
- ▶ 西 学んだことや感じたことを周りの人に伝える
- ▶ 北井 自分事として捉え、積極的に行動する
- ▶ 平川 能登の現状や備えることの大切さを周りに伝える

ご清聴ありがとうございました

令和6年度
学校防災ボランティア事業
成果報告会

班メンバー

- 班長 桑名西高等学校 伊藤大貴
- 副班長 伊勢高等学校 森田悠斗
- 尾鷲高等学校 大和虹乃華
- 皇學館高等学校 山口凜華
- 津西高等学校 小栗陽茉乃
- 四日市南高等学校 西野朱音

発

表

テ

ー

マ

①

門前高校での話を聞いて
学んだこと

発

表

テ

ー

マ

②

仮設住宅での足浴・お茶
会を通して学んだこと

門前高校の生徒が語ってくれた地震の体験談

発表テーマ①



地震後、門前高校がしている防災対策

発表テーマ①



仮設住宅の方への足浴とお茶会の案内

発表テーマ②



足浴とお茶会の様子

発表テーマ②



現地に行って学んだこと、今回の経験を通して伝えたいこと

- ・ 災害が起こる前の定期的な対策や備えが大切。
- ・ 周りの人全員で協力して、行動すること。
- ・ 日頃から、地域の人とのコミュニケーションを取っておくこと。
- ・ 現地に行って聴いたこと、見たことを忘れずに、周りの人に伝えていくこと。
- ・ ニュースなどから得られる情報と、自身の五感を使って感じたことは全く質が違ったこと。
- ・ 被災地に行く際は、しっかり下調べをし、万全な準備をしたうえで行くこと。
- ・ 学生でも災害時に手伝えることは多くあり、相手が大人でもためらわずに行動すること。

私達の決意表明

- 伊藤 災害時にボランティアする側としても行動できるようになる。
- 森田 日頃から防災に関心を向け、行動できる人になる。
- 大和 自分にできることを常に考え、災害時には、積極的に活動する。
- 山口 この経験を活かし、災害時には率先して行動する。
- 小栗 今回の経験を活かし、思いやりのある行動をする。
- 西野 自分で考えて行動し、災害時には地域の人を守る側として率先して行動できるような人になる。

令和6年度 学校防災ボランティア事業 成果報告

3班メンバー

班長	いなべ総合学園高等学校	伊藤	真菜
副班長	名張青峰高等学校	岸下	琳生
班員	鈴鹿中等教育学校	別府	郁美
	津高等学校	久米	美月
	宇治山田高等学校	佐藤	舞依
	木本高等学校	濱野	匠見

発表テーマ

能登半島地震後の 変遷をたどる

1日目	2日目	3日目
被災体験、学校再開 などについての講話	仮設住宅での ボランティア活動	被災地視察
地震発生～ 避難所生活終了まで	避難所生活の様子、 日常	これからの復興と これからの能登

1日目

被災体験、学校再開 などについての講話

地震発生～避難生活終了まで



能村さん

養護教諭の災害後の体験についての講話

生徒の考える防災についての講話

養護教諭
北澤先生



保健委員
橋本さん



保健委員
皆川さん

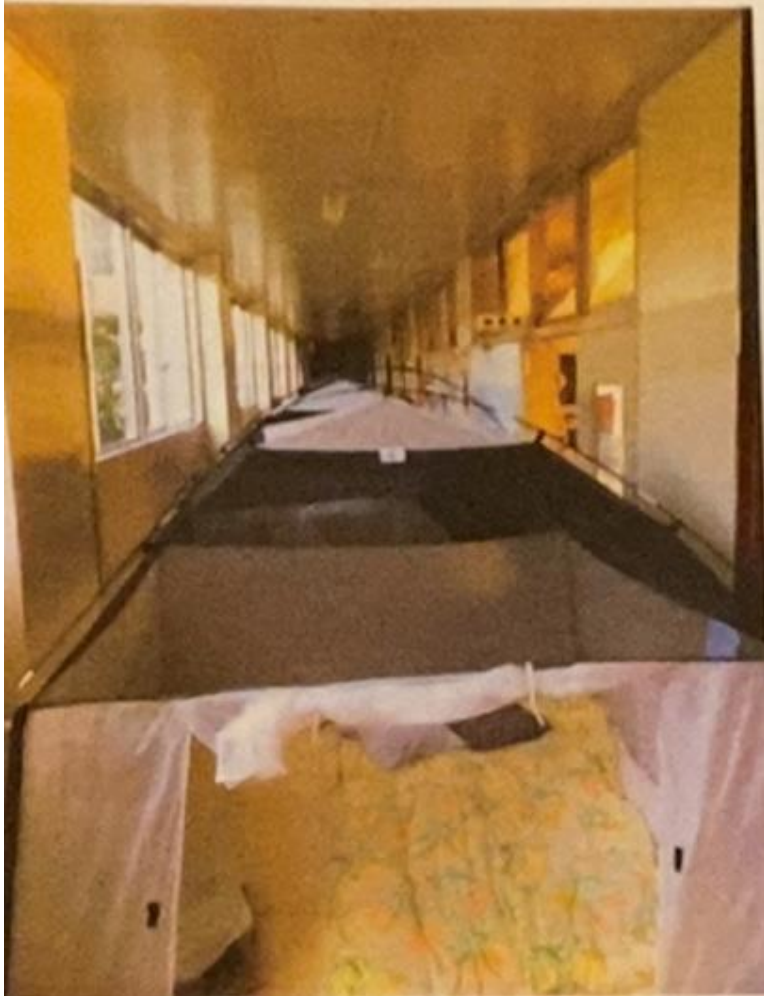
地震発生

3班



避難所

3班



学校の廊下



教室

避難所での問題

感染症拡大

新型コロナウイルスやインフルエンザなどに集団感染。
中には亡くなる方も。

支援物資の不足

地震によって道路が寸断され、支援物資の供給が遅れた。

仮設トイレの不足

特に深刻

設置するまでに時間がかかり、トイレを我慢
するため、体調不良者が増加。衛生環境の
悪化により病気や感染症蔓延の恐れ。



学んだこと

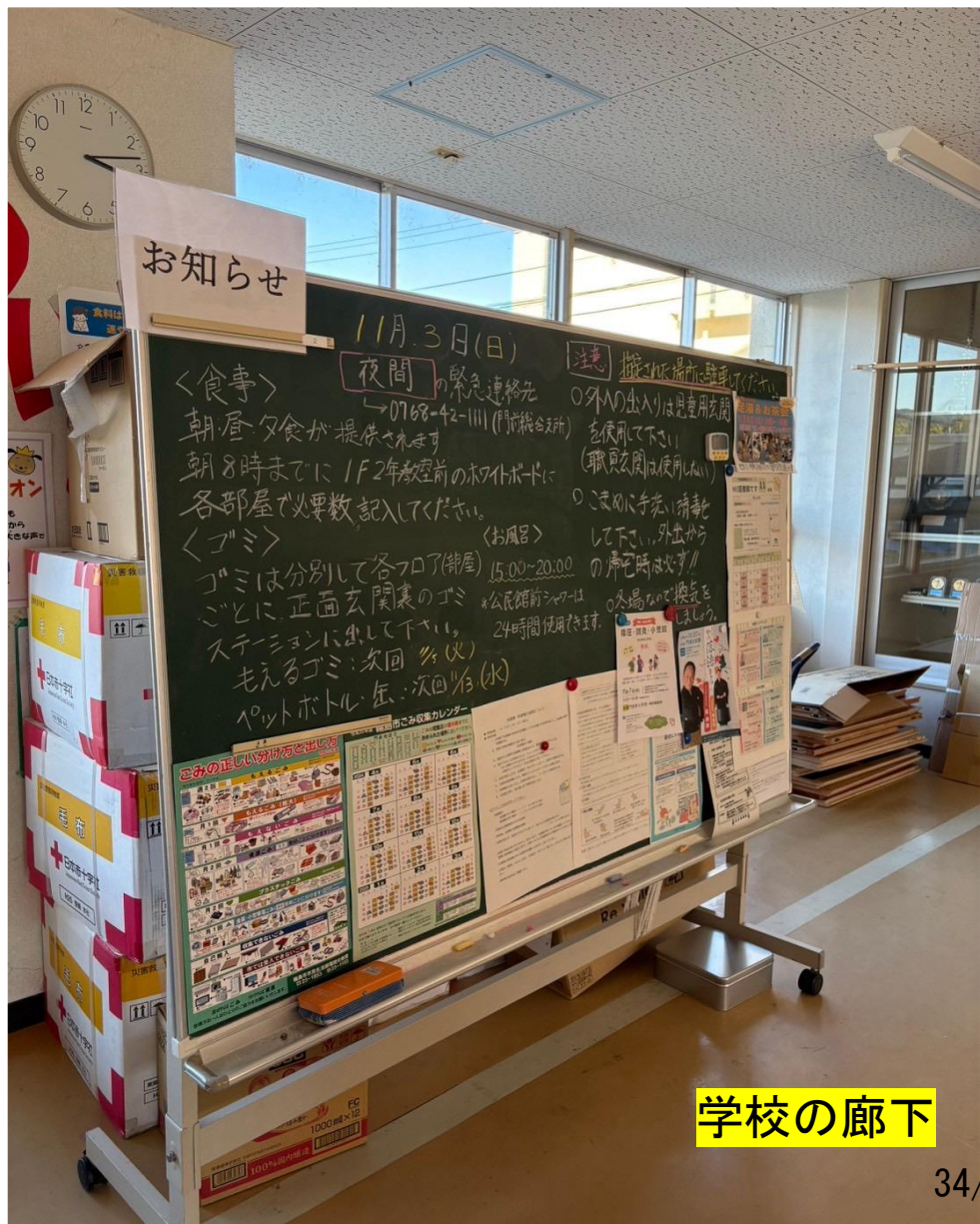
- 皆で協力し合うことが最重要
- 指示を待つのではなく、自分で考え、行動することが大切
- 常日頃から災害に備えておくことが大切

2日目

避難所生活の様子、日常

足浴

3班



学校の廊下



足浴の準備

避難している人々に
それぞれの思いがあ
る→足浴行かなかっ
たり

共有したいこと
そこにいるみんなが参加
したいと思うことはない
↓
その人の思いを認める



3班



仮設住宅



3日目

これからの能登

3日目 これからの能登

被災地視察① 總持寺周辺



總持寺祖院

- ・近くの仮設商店では活気が溢れていた
- ・お寺の復旧作業が続けられている
- ・完全な復旧には時間もお金も掛かるため募金や石川に旅行に行くなど継続的な支援が必要

これからの能登

- ・能登の人々の温かさや住民同士の強いつながりがありそれはこれまでもこの先も変わらないだろうなと感じた
- ・自分が能登を助けようと意気込んで能登に行くのではなく日頃の疲れを癒したい、人の温かさを感じたいと思った時に能登に観光しに行くことで自分にとっても能登の人々にとってもプラスになるのではないか

被災地視察②

輪島朝市通り周辺

3日目 これからの能登

被災地視察② 輪島朝市通り周辺



輪島朝市



3日目 これからの能登

輪島朝市 in パワーシティ輪島ワイプラザ

- ・活気に満ちあふれている
- ・ボランティア拠点到

3班

島朝市

野菜部会



3日目

これからの能登

変わったことがある一方で

変わらない能登の姿がある。

すがた、そこにいる人、想い、温かさ、
輪島のみなさんやボランティアをする人にとっての
心の拠り所、活動拠点、エネルギー源

私たちの決意表明

伊藤: 震災を経験していない今を大切に。

岸下: 防災意識を高め、いつ災害が起こっても対応できるようにしておく。

別府: 学ぶだけで終わらずに行動する。

久米: 防災について学び続ける。

佐藤: 今回の経験を忘れず、周りの人にも防災の大切さを伝えていく。

濱野: 今回の学びを自分だけのものにせず周りに伝えていく。



ご清聴ありがとうございました。

三重県学校防災ボランティア 事業活動報告

4班メンバー

班長	桑名高校	稲濱優月
副班長	伊勢工業	伊藤希朗
班員	宇治山田商業	掛橋如乃
	木本高校	楠本あみ
	皇學館高校	向井杏
	四日市南	辻大誠

発表テーマ

自分の将来や地元に今回の体験を活かして
自分たちができること

能登までの道路状況



4班

⚠ 通行可能な場所でもまだ注意が必要
⚠

門前高校での活動



4班



仮設住宅訪問

4班



足浴やお茶会

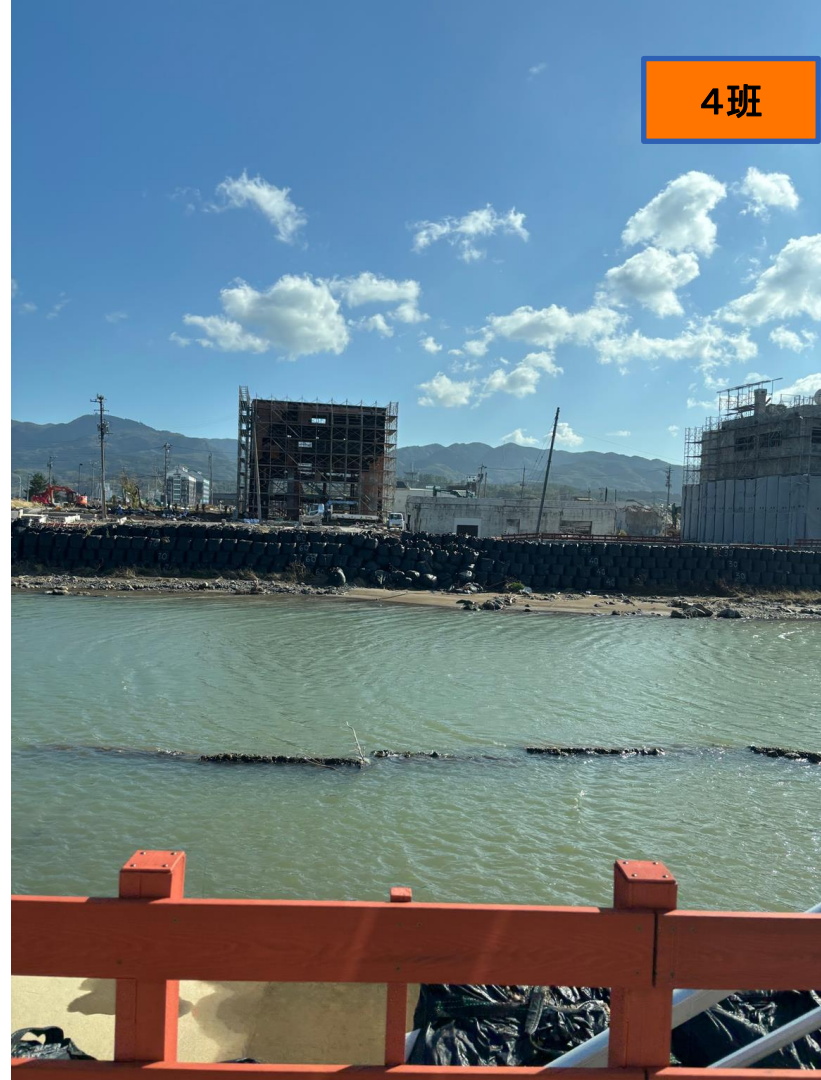
4班



輪島市視察



4班



4班

まとめ

4班

自分たちが地元のためにできること

★地域の防災意識を高める活動を積極的にする！

▶ ▶ ▶ 被災地で災害に対する備えの重要性を強く感じた

★被災地の復興支援に積極的に参加する！

▶ ▶ ▶ 寄付金を通じて、直接的な支援を行うことで、復興の一助となることができる、地元の企業や団体と連携し、復興イベントを企画することで地域全体での支援の輪を広げることができる。

決意表明

稲濱優月：学んだことを医療の現場で活かす。

伊藤希朗：今後の災害のための準備を怠らないようにする。

掛橋如乃：防災意識をもう一度考え直す。

楠本あみ：震災後の町の復興のための行動の見直しを行う

向井杏：災害に対する備えを怠らず、地域の安全を守るために協力し合う。

辻大誠：学んで来たことを自分の住む街に還元する

5班メンバー

班長

鈴鹿高等学校 今岡 篤紀 (いまおか あつき)

副班長

津高等学校 岸江 咲季 (きしえ さき)

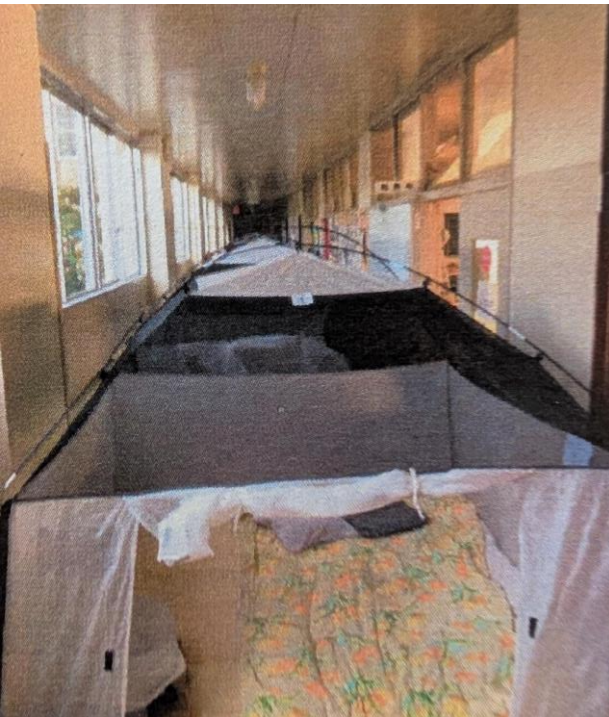
班員

四日市商業高等学校	藤原	こころ	(ふじわら	こころ)
明野高等学校	立橋	央	(たてはし	なかば)
近畿大学工業高等専門学校	富永	実和	(とみなが	みわ)

発表テーマ

私たちが能登半島に行って
学んだこと感じたこと





← 体育館や教室よりも
窓などの被害が少ない
廊下での避難生活

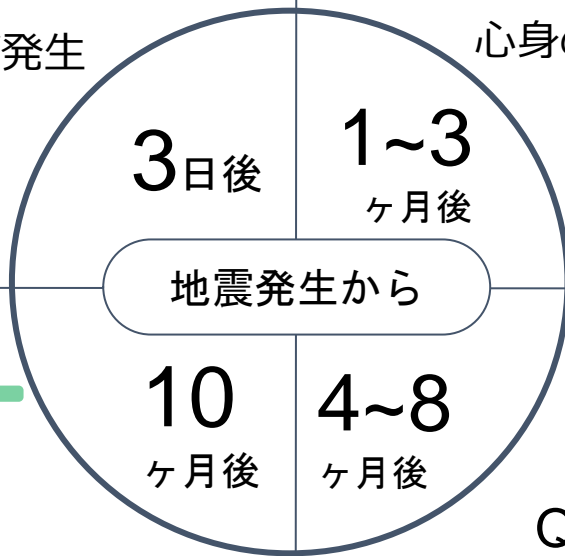
当時の状況

断水でトイレが流せない
停電、通信障害が発生
教員自身も被災し
駆けつけられない

1月29日～ オンライン・対面で授業再開
生徒のメンタルケア

担任やスクールカウンセラーによる定期的な面談
教職員へのこころのケアに関する研修

- ・ 自宅の被害が大きい生徒などは、気丈に振る舞っていても心身の不調を抱えていることが分かった。



断水の解消(3月中旬)
門前高校 避難所の閉鎖(3月末)

訪問した11月初旬

← 建物の基礎部分に
被害が残る校舎



保健委員会のアンケート

Q 震災後大変だったこと

- ・断水 ・寒さ ・生活環境の変化
・食べるもの ・メンタル

Q 役立ったこと 助かったこと

- ・周りからの支え ・自衛隊の入浴支援



～やってみて感じたこと～

～11月3日～

足浴、お茶会ボランティアをしました。
お茶会では三重県のお菓子、糸印煎餅をお土産に持って行きました！

足浴の様子



色んなお話を聞かせていただきました

～11月4日～

輪島市内に現地視察に行きました

崩壊したビル



仮設住宅の様子



足浴では色んなお話を聞くことができました。普段見ているニュースなどのメディアでは聞くことのないリアルな声を聞くことができましたと思います。皆さん本当に暖かく迎えてくださいました。

輪島市内を見学したときは衝撃でした。地震発生から1年近く経とうとしている中まだまだ建物もそのままで、昨日地震があったかのような景色に言葉が出ませんでした。そんな中でもみなさんが笑顔で手を振ってってくれる様子が印象的でした。

高校生の話を聞いて

受験生として

- ・ 学校が自習室を提供
- ・ 家族・先生のサポート



現地の方々のお話を聞いて感じたこと

私たちがお話を聞いて実感したことは、

「絆が紡ぐ復興の力」

の素晴らしさです。



南海トラフ地震への備え、将来どう活かしていくのか

巨大地震に備えてすること

- ・防災セットを作ること。
- ・地域の人とコミュニケーションを取って置くこと
- ・災害伝言ダイヤルと公衆電話の使い方を知ること

災害伝言ダイヤルは月に二回自由に
使える日がある！
家族と一緒に使ってみると良い！

今後大切なこと

- ・災害から得た学びを未来へつなげていくことが大切。
- ・私たち高校生にできることは何なのか。私たち高校生にしか出来ないことは何なのか。考えて行動すること。

私たちの決意表明

今岡：災害が起きたときに、
ひとりでも多くの人を救える存在になる。

岸江：能登の震災を後世に伝え、
災害時には主体的に行動できる人になる。

藤原：災害時には的確で迅速な行動ができるような人になる。

立橋：将来保育士になった際に率先して子ども達を守れる人になる。

富永：災害が起きた際に避難所の運営等を積極的にできる人になる。

令和6年度 学校防災ボランティア事業 成果報告

班メンバー

6班

班長
副班長
班員

木本高校
伊勢高校
桑名西高校
北星高校
津高校

岩田小夏
山崎陽菜
渡邊鈴那
矢田智大
柴原彩羽

発表テーマ

状況を知り将来に活かす

- ①能登半島地震発生時の状況・現状
- ②私たちにできること
- ③未来につなげる

①能登半島地震発生時の状況・現状



門前高校での講義1

門前町總持寺通り共同組合代表理事
能村さん

- ✓ 地震発生時の様子
- ✓ 避難所運営



門前高校での講義2

保健委員・養護教諭の方々

- ✓ 仮設トイレ
- ✓ 衛生管理
- ✓ 災害時の備え



仮設住宅と支援

- ・ 被災地にはまだまだたくさんの方が仮設住宅で生活している



- ・ 全国からの支援は被災者さんの心にも届いている



被災者さんとお話をして気づいたこと

- 「**傾聴**」の大切さ
- 「**心に寄り添う**」とは
- 「**共有**」しあうこと

②私たちにできること

募金

SNSの普及により、募金の機会や情報を目にすることが増えている

→募金の利用先を先を見極めることが大切

伝えていく、決して忘れない

実際に現地に行き、お話を聞く

写真に残す

率先避難者になる

~~「自分だけが先走者」~~

避難所の自主運営

- ・ 仕事の分担をする
- ・ 体操をする

SNSで発信する

- ・ 誤った情報を発信しない
- ・ 現状を伝える

③未来につなげる

現在の防災教育や避難訓練に対する見直し

私達の普段受けている防災教育や避難訓練というのは基礎的で一般的な内容が教えられます。

ここで教えられる内容はとても大切ですが、それにプラスして東日本大震災や能登半島地震で現地の人が実際に体験した”不便”とそれを解消するノウハウも教えるべきです。

現在の地震教育は「起きた瞬間にどうするか」という所に重点を置いている印象を受けます。ですが地震の本当の恐ろしさは揺れている瞬間ではなく、収まってからだと思いのです。

能登半島地震では仮設避難所にトイレ設備が二週間以上無かった事や暖房設備の燃料枯渇、衣料品、医薬品などあらゆる生活必需品が不足していました。どれも地震が起きたら必要になる物資です。そういった物を事前に買い込む、定期的に変更し新しい物と入れ替える。そういった所をもう少し掘り下げても良いかと思えます。

私たちの決意表明

- 岩田小夏 将来の自分の職業に活かす
- 山崎陽菜 決して忘れない。沢山の人に発信していく
- 渡邊鈴那 自分事として捉える
- 矢田智大 教訓を活かす
- 柴原彩羽 災害と向き合い、備え、防災の必要性を伝える